580年前に創られた文字
ハングル

안녕하세요
アン ニョン ハ セ ヨ

加 藤 良 一 2023年12月31日

ハングルは、15世紀に朝鮮半島に生まれた韓国語(朝鮮語)を書き表すためのユニークな表音文字です。音(おん)によって成り立つ＜ことば＞が如何にして＜文字＞へと置き換えられるのか、極めて興味深いことです。ハングルは、「偉大なる(ハン)・文字(グル)」という意味で、現代の韓国(大韓民国)ではハングルと呼び、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)ではチョソングルと呼ぶようです。

안녕하세요（アンニョンハセヨ)は、「こんにちは」という意味で、それぞれの文字は以下のように対応しています。

안	=	an
녕	=	nyeong
하	=	ha
세	=	se
요	=	yo

さて、ここからが本題です。冒頭で述べたようにハングルは新たに作り出された＜文字＞であり、＜ことば＞ではありません。

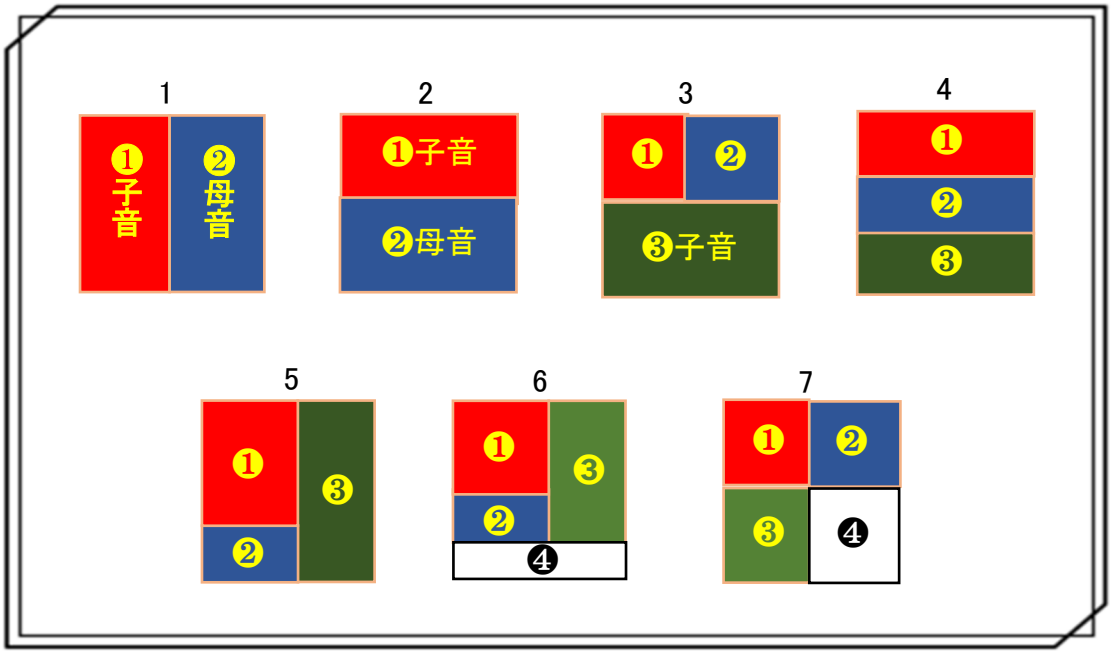
別稿「ハングル語！？」(http://rkato.sakura.ne.jp/kotoba/k8_hangrugo.pdf)にも書きましたが、日本語が、ひらがな、カタカナ、漢字さらにローマ字などで書き表すことができるのと同じように、韓国語(朝鮮語)はハングルと漢字で書き表します。

ところで、日本では、ハングルという呼称を言語名と混乱しやすい状況が散見されます。たとえば、テレビやラジオで「ハングル講座」と名乗っても、内容は「韓国語(朝鮮語)講座」であって、＜ハングル＞に関する講座ではないのが一般的です。「日本語講座」を「ひらがな講座」というような感じでしょうか。そこですでにお気づきと思いますが、「ハングル語」という言い方は、日本語に対して「ひらがな語」と言うのと同じことになり、かなり奇異な表現となります。

現在、朝鮮半島の北と南は、極めて緊迫した状況にあり、＜朝鮮語＞と呼ぶか＜韓国語＞と呼ぶかは慎重にならざるを得ない極めて高度な政治的課題でもあることは理解しておく必要がありそうです。第二次世界大戦以降南北に分断され、以来続く両国の歴史的背景から「ハングル講座」という矛盾を抱えながらも当り障りのない名称が使われているのでしょうか。

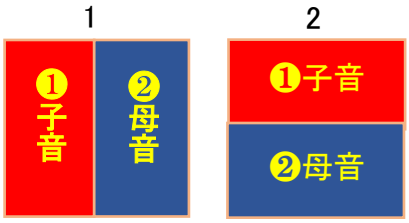
ハングル文字の構造

ハングルは音を表わす字母すなわち子音や母音の組合わせで構成しており、アルファベットのような単音文字を音節ごとにまとめて書く、音節文字です。日本語のローマ字表記に似ています。したがって、韓国語（朝鮮語）以外の言語もとりあえず表記することが可能なのです。ハングルの基本的組合せパターンは以下の7つがあります。



パターン1～5までは、「①子音＋②母音＋③子音」ですが、パターン6は「①子音＋②母音＋③母音＋子音」、パターン7は「①子音＋②母音＋③子音＋④子音」とやや変則的になります。

【例】



①子音「初声」＋②母音「中声」

하 → ① h ＋ ② a ＝ ha

①子音「初声」＋②母音「中声」＋③子音「終声」（パッチム）

산 → ① s ＋ ② a ＋ ③ n ＝ san

韓国語（朝鮮語）は、このように音の要素を繋ぎ合わせれば、意味は別としてとりあえず読むことはできます。しかし、当然のことかもしれませんが、韓国語（朝鮮語）を新たに創り出したハングル文字の子音と母音のみでは表しきれない複雑な音もあるようです。

因みに、わたしの名前・加藤良一をハングルで書くと下に示したようになりました。念のため、facebookの友人でソウル在住のKim Woongさんに見てもらったところ、ちゃんと読めるとのことでした（‘;’）

가드　료우이지

2002年の日韓共催ワールドカップの直後に仕事でソウルへ行ったとき、わたしはほとんどハングルを意識していませんでした。この度ハングルに興味を持ったのは、2024年2月韓国の済州(ちぇじゅ)国際合唱祭に彩の国プラチナ混声合唱団として招待され、演奏旅行をすることになったことがきっかけです。以前から珍しい文字であるとはわかっていましたが、折角韓国を訪問するのですから、これを機に、ハングル文字の成り立ちを認識し、お隣りの国韓国の理解をすこしでも深められればと願います。